

## ① サッカースタジアムが完成、2月にオープン!

「まちなかスタジアム」のオープンに向けて期待が高まり、地元紙も大きく取り上げ、完成までの軌跡をシリーズで紹介している。

ここでは、メルマガの記事を通してスタジアムの建設地が決定されて完成するまでの経緯を簡単におさらいしておきたい。

まず前秋葉市長時代の2005年に市民球場の移転が公表され、跡地活用策について議論された。市はアイデアを市民から公募したり、民間事業者を募って事業コンペを実施。コンペの結果、最優秀案がなく優秀案2点を選定。2010年に市は優秀2案をもとに「折り鶴ホール(仮称)」と「森のパビリオン」のコンセプトを中心とした折衷案を決定したが、市民に不評で立ち消えとなる。

2011年に現松井市長が誕生し、「若者が集い賑わう場」として再検討することとなる。旧市民球場跡地委員会を設置し、有識者や市民等が議論して2013年に活用方針を決定。

一方2013年、県、市、商工会議所、サッカー協会によるサッカースタジアム検討協議会を立ち上げ、建設場所等の検討を開始。2014年、球場跡地とみなと公園がサッカー場の建設候補地に上がったため、球場跡地の整備の動きはとん挫。仮囲いを残したまま公園として一般開放する。

2015年の市長選では当時のサンフレッチェ広島の前社長が立候補し、球場跡地を強く訴えたが惨敗。協議会はみなと公園を優位と決定したが、交通渋滞を懸念する周りの物流業界から反対運動がおこる。さらに2016年にはサンフレッチェ広島会長から球場跡地でなければ動かないという横やりが入る。

サンフレッチェ広島会長を交えた県・市・商工会議所のトップ会談の協議の結果、2019年に第3の候補地中央公園自由・芝生広場に決定。候補地に浮上して隣接する基町地区住民から反対運動がおこるが、協議会を設置し住民の意向を聞く形にして不満を抑え込む。

また市はサッカー場の建設場所を決定後に「中央公園の今後の活用に関わる有識者会議」を開催し、中央公園全体の整備方針を示したが、後付けで目新しいものはない。

本来なら、設計に着手する前に予備調査を行い、自由・芝生広場の掘削時に予想される旧陸軍輜重隊の被爆遺構などを把握し、スタジアムの設計に反映すべきであった。その土地に宿る歴史や文化を踏まえた建物にすることによって市民の愛着度を増すことができる。

2021年、完成を早めるため民間事業者から提案を求める設計・施工一括発注方式を採用し、請負業者(大成建設JV)を決定。2022年に着工し、輜重隊の被爆遺構なども調査保存にとどめ、2024年2月開業に向けて猪突猛進した。

今思うに、敷地選定にダラダラと時間をかけ過ぎ、理想的なスタジアムにするための環境を整備することに疎かであった。設計も国際コンペにして広島を中心に建つスタジアムのあるべき姿について世界から英知を集めるべきであった。場当たりの急ごしらえのスタジアムが完成したが、その報いがこの先どんな形で現れてくるのであろうか。

オープンが近づいた現在の姿は、翼を羽ばたくイメージの大屋根が遠方からも望まれ、まちのランドマークとして市民に幅広く親しまれることが期待される。

施設概要は建築面積約26,000㎡、地上7階建て(高さ42m)、収容人員は約28,500人、総事業費は約285億円。

サッカー専用スタジアムとしていろいろな工夫がなされ、サッカー選手やファンにとっては喜ばしい限りであろう。

ただJリーグの試合は年間20試合程度という。年間を通して幅広く利用してもらうためにはフレキシビリティのあるプランの方が望ましい。

周囲の芝生広場も民間の資金やノウハウを活用したパークPFI方式で整備され、8月のオープン予定。このエリア全体で年間310万人の来場を目指している。

これからの変遷も逐次追っていきたい。(瀧口信二)



本川の対岸からの遠景



上空からの遠景(市のHP)